

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている			
		商店街（代表者）	単価の動き	・商店街内にある百貨店も含め、全体的に高額商品に動きがみられるようになっている。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・新規先、既往先を問わず、少なからず売上高が堅調になっている。ひところのように悲観的な話題が少なくなっている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・来客数は、前年比でここ数が月伸びておりこの傾向が続く。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上は、3か月前までは前年比80%台で推移していたが、前月の同90%台回復後、今月も同93～94%まで回復してきた。
		コンビニ（店長）	それ以外	・売上全体では、前年比95～97%で推移しているなか、中食と言われる弁当、おにぎり、すしなどの加工食品の売上がわずかながら前年を上回った。3か月前と比較すると、中食の売上が戻っている。
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・客単価は低迷したままであり、財布のひもが固い状態ではあるが、来客数の増加が補っている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・テレビの売上が品切れの影響もあり落ち込んではいないが、予想の範囲内であり、全体への影響はさほど大きくない。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前半の春休み中は前年並みで推移したが、中旬以降は大型連休を控え下降し始めている。しかし、全体的にみると夜は低迷したままであるものの、ランチタイムや週末は、徐々に客数が戻り前年並みになりつつある。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・3、4月と来客数は前年に比べ増えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・一過性かもしれないが、売上が前年比、前月比で増加に転じた。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・落ち込み幅が前月比7ポイント程度改善した。県内には業関係など元気な業種もあり景気の持ち直し感があるが、レジャー関連は相変わらず厳しい。
		通信会社（職員）	お客様の様子	・大型連休を前に、取引深耕につながる問い合わせが増え、来客数もやや増えている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・依然として見込み情報が減少しているものの商談件数が増えてきた。今まで、慎重を期してためらっていた客が動き始めている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売単価は改善しないものの販売数量は増えている。季節要因があるものの住宅に関する政府の減税対策が客に浸透してきた感がある。
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・イベントを実施した場合の集客数が増加している。また商談中の客の数も増えている。		
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・天気が不安定なので、本来の春物が売れない。防寒着を長く着ている状態で、一気に初夏物に移りそうである。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・暖かい日にはそれなりの人出があるが、寒くなると一転して極端に人出が少なくなる。イベントなどで集客を狙ってもこの傾向は強く、寒い中を無理して買物をしようという気配は全く感じられない。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・天候不順でゴルフ場などからの注文が減少しているものの、店頭での購買状況は良くなりつつある。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	お客様の様子	・もともと当月は年度末の売上の影響を受ける時期であり、前年同月比で遜色ない売上高となった。しかし、民間企業の年度末需要はほとんどなかった。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・高額商材に動きはみられるものの、一時的な買い控え行動の反動によるものであり、中期的な景気回復によるものと判断しづらい。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・客の購買志向からすると、依然として巣ごもり現象は続いている。食料品や家庭用品関連は前年を上回る好調さを維持している。また、今月は気温の低下が見られ、婦人服などでは防寒関連のコート類に大きな動きがみられ前年を上回った。一方、サンダルや帽子、サングラスなど夏に向けての商品は前年を大きく下回っている。

百貨店（営業担当）	来客数の動き	・通常時の来客数が全く伸びないまま、前年の1割減の状況が続いている。イベントなどを開催しても初日しか効果がない。
スーパー（店長）	お客様の様子	・引き続き客の節約志向は感じられるが、単価や販売量など、ここ1～2か月は横ばい状況であり、下げ止まり傾向がみられる。来客はポイントなどのサービス日、チラシの価格が安い日など、よりサービスのよい日に集中している。
スーパー（店長）	お客様の様子	・自社カード提示者に対する割引設定日に、比較的客が集中するようになった。
スーパー（店長）	お客様の様子	・必要最低限度のコモディティ関連商品の動向は横ばいで、衣料品など現状買わなくても生活に支障の無い商品は、引き続き不透明な状況で推移している。生活防衛型に変化はない。
スーパー（店長）	単価の動き	・来客数、販売点数をみると前年と変わらず節約志向が続いているが、客単価は下げ止まり傾向にある。
衣料品専門店（経営者）	それ以外	・4月に入ってから異常に寒い日が続き、前半、中盤と伸び悩んだが、20日過ぎから気候も暖かくなり、来客数も持ち直してきた。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・極端に財布のひもを締め付けていた以前と比較すると、客の財布のひもは少しではあるが緩んでいるように感じる。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・客の話では最悪期を過ぎたように感じるが、販売量をみると上向いているとは到底思えない。
衣料品専門店（総括）	単価の動き	・販売単価が低下したままで、低価格商品を求める消費マインドに変化はない。また、上昇する気配もみえない。
乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・乗用車販売は、「小型」「安い」「低燃費」の傾向は変わらないが、一方で超高級車がやや動き出した感がある。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・乗用車の使用年数がすでに長期間に渡っており、買換え時期と思われるにもかかわらず、車検に出し、継続して使用する人が多くなった。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・エコカー減税・補助金の効果もあり、自動車小売業界は前年を上回る状況が続いているが、前々年ほどには至っていない。またエコカー減税・補助金の延長もあり客の購買姿勢も間延びしているようで、受注ペースではダウンしている。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・乗用車の販売量は、前年比約2割増加しているが、受注量は横ばい傾向である。
自動車備品販売店（従業員）	販売量の動き	・天候不順によるタイヤ需要期のずれ込みにより、数量ベースでは前年増の状況だが低単価で売上のけん引につながっていない。AV用品も前年はETC特需があったが今年はナビなども低単価傾向になっているため厳しい状況が続いている。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・大口のガソリン販売先は経営的に一息ついているようだが、小口販売先の一部には、相当に苦しそうところがみられる。
その他専門店 [医薬品]（営業担当）	来客数の動き	・既存店約100店舗の売上は、デフレによる価格低下効果と買物ポイントの付与増加で落ち込み分をカバーができたが、客数はまだ2%低下したままである。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・入学・就職祝いなどの個人需要は好調だが、今年の桜の見頃は1週間にも満たない短命で、人出が増えたのは数日だけだった。法人利用としては、製薬・病院関係が安定している。
スナック（経営者）	来客数の動き	・前月は、売上が8割程度戻ってきており明るさが見えたが、今月は3か月前と同様に売上は振るわなかった。ただ、製造業の経営者からは「7～8割戻ってきた」との明るい話も聞かれる一方、小規模の事業主からは「人をリストラしたままの状態」との話も聞かれ、明暗がはっきりしてきた。
観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・売上は前年比108%、宿泊単価同95%、宿泊人数同117%となり、売上が前年を超えたのは宿泊人員が増加したためである。1月から4月にかけての大口団体が取れた事が大きな要因である。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宴会利用は人数が増えたものの、単価が減少した。宿泊とレストラン利用は人数が減ったものの、単価アップとなり、総じて前年を若干上回った。

	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・年初の顧客の動きと同様に、見積案件の数量が少ない。顧客との会話にも、視察・会議・招待の需要に対し、慎重な動きを見せている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・JRが何回か強風の影響で止まったときは忙しくなったが、花見関連では忙しかった日はわずかであった。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・例年4月は大学生の入学や転勤などによる新たな居住先の確保により、ケーブルテレビやインターネット新規契約が大幅に増加する時期であるが、今年度は動きが鈍く前年比8割程度で推移している。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・本来であれば新商品の発売を控え販売数も減少傾向になるのだが、第三世代携帯電話への変更が、通常の機種変更の台数をカバーするほど増えてきた。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・利用者数は、大口の一般団体や海外からの観光客が回復したために、団体部門は前年比持ち直しの兆しがみられる一方、個人客は同10%以上減少している。全体として前年並みの利用人数となった。	
	パチンコ店（店員）	来客数の動き	・前年比でみれば約1割程度の売上増だが、3か月前と比べると大きな変化がない。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・ヘアカラーリング剤をドラッグストアで買って自分で染める客が目立ってきた。美容院も価格競争に巻き込まれつつある。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・この時期、1社で住宅展示会を開催しても来場者数が少ないことに変化はない。複数社の展示会でないと来場者数が増えない。	
やや悪くなっている	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・4月は気温低下と寒暖の差が大きく、ホームセンター部門では園芸品、スーパー部門では衣料品のうち半袖商品、食品のうち野菜の高騰などで季節商品を中心に振るわなかった。	
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・財布のひもが固いのか、基本的には安価なもの、値引き商品に偏って商品が売れている。	
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・テレビは家電エコポイント需要の反動により、4月度は販売量の落ち込みが見受けられる。	
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・ついで買いをする余裕がなく、必要品のみの購入に限られている。そのため購入点数が減っている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・月初めの週末は桜の満開の時期と重なり、一時的に良かった。中旬以降は、天候不順で寒い日もあり、夜の飲食店街には全体として入出は少なく、節約傾向がうかがえる。	
	競輪場（職員）	販売量の動き	・1日当たりの販売額が3か月前に比べ約300万円程度落ち込んでいる。	
悪くなっている	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・無駄なものには全くお金を使わない。特に耐久消費財についてはかなり慎重になっている。バーゲンなどの安売りには客も動きがみられるが長続きはせず、一時的なものとなっている。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・婦人衣料関連については厳しい状況が続いているものの、スポーツ関連など高機能織物や自動車関連の資材用途分野については持ち直しの動きがあり、前年比大幅増となっている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・衣料については、秋冬物の生産がピークを迎え、1～3月と比較すると忙しくなってきた。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量も受注量も増えている状況にある。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・引き合い件数が増えている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・5月以降納期の受注が多く入っており、取引先の様子から見ると良くなっている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産取引は、動きが出てきたとの声が多くなってきた。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は、前年と比較するとここ数か月増加している。
		司法書士	取引先の様子	・商業登記分野で、会社設立や環境関係を中心とした事業目的追加の依頼がある。

	税理士（所長）	競争相手の様子	・中小企業の経営計画を作る依頼が増えており、やる気のある経営者が確実な経営戦略を描こうと意欲的になっていることを肌で感じる。経営環境の雰囲気も良くなっているようである。	
変わらない	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・産業資材分野は動きが見えてきたが、住宅市場はいまだに変わらない状況が続いている。	
	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ2～3か月の生産・売上実績は、ほぼ同水準で推移している。ただし前年同期に比べれば、20%前後増加している。	
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・燃料費の値上がりや高速道路料金改定における平日深夜割引の廃止の動きなど、運送会社にとってコスト増の環境になっている。	
	輸送業（配車担当） 金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き 取引先の様子	・仕事量が増えず変化がみられない。 ・製造業において、販売調整のため、従業員の休暇を減らす動きもみられるが、業況は引き続き様子見の状況である。	
やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量の減少傾向が顕在化した。受注価格、販売価格がさらに下がり、市場において価格競争がより厳しさを増していることが要因である。	
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・4月下旬に県内の建設業者2社が経営破たんしたが、行政による一昨年未の中小企業向け緊急融資の効果が薄れてきたことの証左である。	
悪くなっている	建設業（総務担当）	それ以外	・見積りや入札件数はやや増加傾向がみられるが、特に建設工事では見積り・入札価格は破格な低価格業者が現れ、異常な競争状態が続いている。	
雇用 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・依然として企業部門での景気上昇の様子が見受けられず、人材派遣業界の回復は厳しい状況である。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年度末で終了する契約の更新が少なく、新たな需要も極めて少ない。あっても条件が厳しく成約には至らない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・正社員の求人数は大きな変動がないが、アルバイト・パートの求人数が増えた。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数の底打ち感はあるが、企業の採用に向けた姿勢は慎重で増えていない。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数が前年同期比24%減となっており、各業種で前年度を下回っている。
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の出稿状況は前年比75%である。	
悪くなっている	-	-	-	